

“Modal Cycle”, “Composite Sequence”, “Model Cycle”

志岐常正 (京都大学)

最近、ちょっとした論文を、ある雑誌で投稿する過程で、表記の3つの述語の概念が、一般に案外知られていないことに気がついた。連絡会報に何か書けと言われた、この機会にかんたんに解説させていただくことにする。

● “Modal cycle”

“Typical cycle”といってもよい。
“cycle”のシノニムとして“rhythm”が用いられることもある。

「ある succession を通じて、もっとも頻ばんに現われる sequence (順序関係)」を意味している。

Grès de Peira Cava 地方のタービダイトについての Bouma の解析の例では、彼という Te-e 型が最頻の型、すなわち “modal cycle” である。筆者ら (木村, 井内, 志岐, 1970) が、大阪府高槻市北部の二畳系砂岩層について調べた結果では, modal cycle は、下位から、緩化堆積部、平行ないし斜交葉理部、泥質部ととらえられた。四万十帯の、和歌山県切目崎海岸の牟婁層群の砂質フリッシュの場合には Ta-e 型が modal である。(原田・志岐・徳岡, 1969)。

なお、日本語では、“modal cycle”を直訳すれば、“最頻輪廻型”とでも呼ぶ他はないだろうが、かえって訳さない方がわかりよいかも知れない。

● “Composite sequence”

原田ほか (1969), 木村ほか (1970) では、“総合順序関係”と呼んでいる。たとえば、ある地域のある地層の堆積輪廻が、“modal”には下位から上位へ c, d と f などの要素からなるが、まれには、a, b と e とからなるとする。この場合、一般に a は b の下、b は c の下、e は d と f と間に現れるとすれば、この地層の “composite sequence” は、a, b, c, d, e および f の順序であると言える。タービダイトの堆積構造についての、Bouma の有名な模式は、まず Grès de Peira Cava 地方のタービダイ

トについての “composite sequence” として、まとめられ、やがて、タービダイト一般にあてはまる法則性とみられるに至ったものである。“composite sequence” は地域により、地層により異なりうることは言うまでもない。たとえば、ウエールス地方の Hell's Mouth Grits については、Grès de Peira Cava 地方のものとは異なることが知られている。(Bassett and Walton, 1960)

● “Model cycle”

“Ideal cycle”と言いかえることもできる。Dzulynski and Walton (1965) は、“model cycle”や“composite sequence”が実在の岩層についてのものであるに対して、“model cycle”は理論的、考察から導かれるものである」と言っている。

タービダイトについての “model cycle” はよく知られている。原田ら (1969) はこれを “Bouma の模式”と呼んでいる。タービダイト以外の地層についても “model” となるような輪廻型というものはありうるから、“model cycle” に日本語の訳を与えたとすれば、“模式輪廻型”あるいは“モデル輪廻型”ということになるかも知れない。しかし、簡単に、“モデル・サイクル”の方が、わかりよいかも知れない。

なお、Bouma (1962) 自身は彼の Ta-e を “composite sequence” という言葉でなく “complete sequence” という言葉を使った。しかし、これは Dzulynski ら (1965) によれば、Vassoevic (1948) が別の意味に使った “complete cycle” とまびらわしいのでよくない。さらに付け加えると、Bouma (1962) は、彼の a, b, ... e を “interval” という言葉で呼んでいるが、この言葉は英国の Walker (1965) によれば、英語としておかしいので “Division” と呼ぶ方がよいだろう。